

日本 YMCA 同盟 39 組 87 人のウクライナ人の避難のための来日をサポート

3月初旬に寄せられた1人の方の相談を受けて日本 YMCA 同盟は、そのグローバル・ネットワークを活かしてウクライナ YMCA・ポーランド YMCA・ヨーロッパ YMCA 同盟と連携し、出国手続きやビザ書類作成、待機期間中のホームステイ提供など、来日までの2週間を伴走するサポートを開始しています。4月28日現在までに39組87人の来日および来日後の生活のサポートを行っております。ウクライナの居住地による戦禍の違いはもちろん、持病や障がいのある方、経済的困難をかかえる方、保育や教育を必要としている方など、避難される方のニーズは一人ひとり異なるため、支援の仕方も個々に検討が必要です。日本 YMCA 同盟は皆さまからお預かりした募金を用い、他団体とも協働しながら対応を続けています。在日ウクライナ大使館はこれらの働きを高く評価し、日本のウクライナ人によるNPOとの連携事業など、期待を寄せて頂いています。



日本での生活基盤の支援・避難したウクライナ人の方々のコミュニティ形成支援へ

日本 YMCA 同盟では引き続き来日サポートを継続するとともに、今後は、日本に住んでいる避難民の方々の生活相談、各種手続きサポートや、生活基盤となる顔の見えるコミュニティ形成などが重要になると考えています。この度、サンフロンティア不動産株式会社の協賛を得て、四ツ谷にある「[A YOTSUYA \(エーヨツヤ\) ⇨](#)」にて、日本に避難しているウクライナ人とそのご家族のための交流、学びの場“Ukraine Café HIMAWARI”を5月1日にオープンします。

四ツ谷駅から徒歩5分と利便性も高く、アートとシェアオフィスを融合させた空間で、戦禍のウクライナから避難し、1万キロ以上離れた日本において慣れない生活を送る避難者が、広々とした開放的な空間で、リラックスして交わりや学び、情報交換などができることを目的としています。

サンフロンティア不動産株式会社取締役執行役員本田賢二さんは、

「社会貢献活動として、社員もボランティアとして参画していく予定。A YOTSUYA の協力アーティストからも積極的な賛同が寄せられており、双方により形で盛り上げていきたい」と語っています。



平日は、日本 YMCA 同盟による、避難者への多言語での生活相談を中心に、教育や就業の支援、各種手続きの支援などを行います。また日曜日を中心に、在日ウクライナ人による NPO の協力を得て日曜学校やアート教室、YMCA による生活日本語レッスン（オンライン併用し全国展開）などを運営していきます。これらの運営には、避難者自身も携わります。

キックオフイベントとして、5月8日（日）の「母の日」に、親子の工作ワークショップや、ウクライナと日本の軽食を交えた交流などを予定。現在、ウクライナでは成人男性は出国できないため、日本に避難しているウクライナ人の8割が母と子どもであり、母子同志の交流や、保育スペースを備えた相談会の実施などを計画しています。

ウクライナの方々の新しいサードプレイスへ。オン・オフラインの支援

また、オンラインでの情報収集支援も強化すべく、日本入国から生活・教育などの支援情報を伝えるサイト「[ウクライナ避難者サポート](#)」も運用を開始しており、在日ウクライナ大使館等で案内され、日本語・ウクライナ語で展開しています。一般社団法人ジャパン・ウクライナパートナーズと共に今後も内容の充実を図り、日本で生活するのに必要な多岐にわたる情報を一元的に可視化できるよう努めていきます。



日本 YMCA 同盟でウクライナからの避難者と日本の受け入れ家族の支援活動にあたる横山由利亜は、

「いのちの危機は逃れても、言葉がわからない日本での生活はストレスがとても大きく、家にこもっている人たちも多い。子どもはトラウマを抱えているケースが報告されている。こころを開いてわかちあい、前向きになってもらえる場にしたい。」

イベントの企画運営に協力する一般社団法人ジャパン・ウクライナパートナーズの代表者 末導ホルツ欧里香さんは

「避難してきている人たちも支援を受けるだけでなく、自分たちも協力や参画をしたいという気持ちがある。キャリアの背景もさまざまに高いスキルを持った人も多い。」と話しています。

日本 YMCA 同盟では、今後も引き続き避難民の安全な受け入れ支援、そして日本国内での新たな生活基盤構築に向けて、今後も支援展開して参ります。

